

D P C データ提供における模擬申出書について

番号	模擬申出者	所属機関	研究名称	研究内容
A	伏見 清秀	東京医科歯科大学	D P C 分類毎の退院時転帰および退院先に関する記述疫学研究	地域や施設によって特性の異なる医療の質を継続的に向上されるためには、各医療機関が自院のDPCデータを含めた診療情報を分析して結果に基づきPDCAサイクルを回していくことが必要であることから、自院データの分析結果を全国平均等と比較するためのベンチマーキング指標を作成する。
B	伏見 清秀	東京医科歯科大学	D P C データを用いた若年性胆管がんの記述疫学研究	印刷事業所における有機溶剤暴露による職業性胆管がんの発生が社会的問題となっているが、胆管がんは50歳未満での発症・死亡例は極めて少なく、その疫学的特性に関する情報は充分には把握されていないことから、疫学特性を明らかにするため様式1の情報を利用して胆管がんの年齢・地理分布等に関する疫学的記述を行う。
C	伏見 清秀	東京医科歯科大学	急性期入院におけるD P C 分類に基づく患者の受療行動とアクセシビリティに関する研究	有効な地域保健医療計画を策定し急性期入院医療の提供体制の実態評価と改善を行うため、地域における患者の受療行動(医療へのアクセス)を洗い出す必要があることから、急性期入院医療における患者の受療行動についての分析を行い、都道府県及び2次医療圏単位での傷病別の患者の移動及び運転時間区分に基づくアクセシビリティの観点からその実態を明らかにする。
D	伏見 清秀	東京医科歯科大学	循環器系疾患急性期医療のパフォーマンスと資源との関係	医療の施策・政策において、地域で真に必要な医療資源を確保し、患者視点での効率性、公平性を含む医療の質の保証を考慮した医療提供体制を構築するためには医療パフォーマンスを可視化し医療資源との関係性を明らかにすることが重要であることから、3疾患(脳梗塞、急性心筋梗塞、急性心不全)を用いた医療提供体制、各地域における医療パフォーマンスと医療資源の関連性を分析することで医療の質の維持向上及び医療システム再構築を行うための基礎資料を作成する。